



A Preliminary Study of a Life-Planning Lecture to Enhance Perspective-Taking among High School Students: A School-Based Nonrandomized Waitlist Intervention Study in Japan

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 一代 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000380

論文内容要旨

しめい 氏名	わたなべ かずよ 渡邊 一代
学位論文題名	外国語題名 A Preliminary Study of a Life-Planning Lecture to Enhance Perspective-Taking among High School Students: A School-Based Nonrandomized Waitlist Intervention Study in Japan (和訳 高校生対象の視点取得(共感性)を高めるライフプラン教室の予備的研究: 学校ベースの非ランダム化待機群介入研究)
<p>背景と目的: 世界保健機関 (WHO) は、学校教育の中で健康情報と併せて「共感性」を含む 10 のライフスキルを教育に取り入れるよう推奨している。WHO が定義するライフスキルとは、日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力である。思春期は育成をされる対象者であると同時に、生殖可能年齢でもあるという特異的な時期である。近年、思春期から妊娠・出産の知識を持ち健康意識を高める取り組みが促進されている。思春期は他者への関心が高くなると同時に対人関係に支障があることも多く、この時期の健康課題には 10 代の妊娠微増や 10 代の自殺増加がある。我々は妊娠中のカップルを対象に共感性を高めて母親の産後うつを予防するオーストラリアのプログラム (以下、共感セッション) を日本に適応し、効果検証をして普及させている。さらに、大学生を対象にリプロダクティブ・ヘルスと共感セッションを組み合わせて実施したところ、妊娠の計画と出産への自信が上昇した。そこで本研究では高校生を対象にしたライフプラン教室を立案するための予備的研究として、リプロダクティブ・ヘルスと「共感セッション」演習を組み入れたプログラムを立案し、視点取得 (共感性) 向上の効果検証をした。</p> <p>方法: 高校 1 年生 210 名を対象に、非無作為化で介入群と待機群に分けて介入を行った。ライフプラン教室は 2 部構成で、それぞれのテーマは (1) リプロダクティブ・ヘルスと (2) 共感スキルであった。主な評価指標は、多次元共感性尺度の下位尺度である“視点取得”を用いた。分析は、介入の有無と視点取得のスコア変化との関連を、交絡因子を調整した二項ロジスティック回帰分析を用いて検討した。</p> <p>結果: 介入群では、介入前後の視点取得の尺度得点の群内比較で有意な差が認められた (講義前: 中央値 3.8 [最小値 1.6, 最大値 5.0] , 平均値 3.76 [標準偏差 0.61] , 講義後: 3.8 [1.8-5.0] , 3.86 [0.64] ; $P=0.01$) 。群間比較では視点取得の尺度得点が</p>	

介入後に高くなる確率が、介入群で有意に高かった（OR = 2.29, 95 % confidence interval = 1.23-4.26）。

結論： 高校1年生を対象に対照群（待機群）を設定して非無作為化比較試験を実施した結果、高校生の視点取得がリプロダクティブ・ヘルスと共感セッションを組み合わせたライフプラン教室によって向上することが分かった。視点取得の向上は他者理解が向上することを示唆し、他者との社会的相互関係を円滑になることが期待できる。

公表雑誌名：JMA Journal. 2021;4(4):339-346. 公表年月日：2021年10月15日.

DOI: 10.31662/jmaj.2021-0033.

学位論文審査結果報告書

令和 4 年 2 月 22 日

大学院医学研究科長 様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

記

学位申請者氏名 渡邊一代

学位論文題名 A Preliminary Study of a Life-Planning Lecture to Enhance Perspective-Taking among High School Students: A School-Based Nonrandomized Waitlist Intervention Study in Japan

(和訳 高校生対象の視点取得(共感性)を高めるライフプラン教室の予備的研究: 学校ベースの非ランダム化待機群介入研究)

審査結果要旨

提出された論文「A Preliminary Study of a Life-Planning Lecture to Enhance Perspective-Taking among High School Students: A School-Based Nonrandomized Waitlist Intervention Study in Japan (高校生対象の視点取得(共感性)を高めるライフプラン教室の予備的研究: 学校ベースの非ランダム化待機群介入研究)」は、オーストラリアで開発された夫の共感性を高めることにより母親の産後うつを予防するプログラムの日本版プロトコルを作成し、高校 1 年生を対象に、このプロトコルを用いたリプロダクティブ・ヘルスと共感セッションを組み合わせたライフプラン教室を実施し、共感性を高める効果があるかを検証した研究である。学校ベースの非ランダム化待機群介入研究の手法を用い、東北地方の一高等学校において、視点取得を評価指標とし、介入の有無と視点取得のスコア変化との関連を、交絡因子を調整した二項ロジスティック回帰分析を用いて検討している。その結果、高校生の視点取得がこのライフプラン教室によって向上することが明らかになったとしている。審査員は、その研究手法が適切でその成果には一定の意義があり、また、審査委員会における質疑応答やその後の論文修正が適切に行われたとの評価で一致した。

以上のことから、本論文は学位授与にふさわしいと判断する。

論文審査委員 主査 細矢 光亮

副査 横山 浩之
副査 板垣 俊太郎